

◆市民合意形成の手法とプロセス

1. 合意形成プロセスの設計方針

＜方針1＞多様な参加プロセスの設定

・「市民交流ゾーン」の実現の観点から、対象地域・対象施設との関わりの度合いに応じて多様な参加プロセスを設定。プロセス毎に責任と権限を明確化し、相互に関連性をもたせる。

＜方針2＞ソーシャル・インクルージョン(社会的包摂性)

・意見交換の場に参加できない人、意見をいいにくい人に配慮して積極的に声を把握する。

＜方針3＞チーム・ビルディング ～箕面の顔を愛し、育てる人々をつなぐ、後押しをする～

・「私の夢・希望」を「私たちの夢・希望」につむぎだし、対象地域・対象施設に関わる多様な主体の想いのベクトルを合わせる。あわせて、「夢・希望」の実現にむけて、自らアクション・チームとしての活動の継続(例:「市民交流ゾーン」の具現化を先取りした社会実験など)につながるようムードを盛り上げる。

2. 多様な参加プロセスの設定 (＜方針1＞に対応して)

関係者	参加プロセス	実施の目的	責任/権限
検討対象施設関係者	基礎調査(交通事業者の意向把握、サンプラザ関係権利者の意向把握等)	「市民交流ゾーン」の実現の観点から、関係者としての要望・期待、制約条件を事前に把握するため実施する。	事前に意見を述べる/述べた意見が検討素材となる
検討対象施設利用者(コアユーザー) [例]市民ギャラリー利用者、子育て支援、子ども活動、高齢者福祉の活動に関わる方、公演・文化活動を行う方	懇話会	検討にあたっての様々な意見を踏まえ、整備計画をまとめあげる最終的な合意形成の場として設置する。	整備計画を作成する/整備計画を決定できる
	ワークショップ	懇話会における検討の素材を提供するため、自発性のある市民により提案を作成する。	多様な意見を踏まえ懇話会に提案を提出する/懇話会に提案を提出できる
対象地域周辺住民等(近隣ユーザー)	グループインタビュー	ワークショップに参加できない近隣住民や障害者などの意見を把握するため実施する。(＜方針2＞に対応して)	事前に意見を述べる/述べた意見が検討素材となる
一般市民	パブリック・コメント	整備計画(素案)に対して意見を述べる機会として実施する。	計画(素案)に意見を述べる/述べた意見が計画(素案)修正の検討素材となる

3. グループインタビューとパブリックコメントの実施方法

◆グループインタビュー

[対象]

- ・箕面駅及び周辺地域を日常的に利用する近隣住民3グループ(高齢者、子育て、中高生)
- ・障害者福祉関係者1グループ(障害者の意見を代弁できる人)

[方法]

- ・行政、TMO等を通じて協力依頼

[お伺いしたいこと]

- ・駅周辺について現在困っていること
- ・整備・改善の要望・アイデア

◆パブリック・コメント

[方法]

- ・箕面市パブリックコメント手続に関する指針に基づき、実施する。

[多くの意見提出を受けるための工夫]

- ・ワークショップ参加者をはじめ、上記のコアユーザー、近隣ユーザーに対して、パブリック・コメントの実施情報、スケジュールを積極的に伝達する。

4. ワークショップの実施方法

[運営体制]

- ・ワークショップでは3グループを設置し、良い意味での競争意識をもちながら、複数案を作成していく。各グループには進行役として、経験豊富な研究員1名を配置する。
- ・参加者の夢・希望・イメージを「カタチ」に変換するため、設計事務所スタッフが参画し、参加者意見を踏まえた整備イメージ図(イラスト等)を提供する。
- ・貴市住民には、ワークショップの経験者が多く、自ら動きたい、また動ける参加者がおられる。参加者の顔ぶれをみて、可能であれば、ワークショップ参加者に企画委員の設置を提案する。企画委員には、ワークショップの運営に助言・協力を求めることを通じて、ワークショップ終了後での活動継続に向けてのコア人材、ムードの盛り上げ役としての活躍を期待する。(＜方針3＞につながる仕掛け)
- ・ワークショップの開催経過については、貴市ホームページを通じて随時情報を発信する。

[参加者を集める方法]

- ・30名を公募する。検討対象施設の利用者(コアユーザー)には、公募情報を積極的に伝え、応募を呼びかける。応募者の居住地域のバランスを考慮しながら、「市民交流ゾーン」として対象地域、対象施設をよく利用すると想定される市民を書類により選考する。

[ワークショッププログラム(案)]

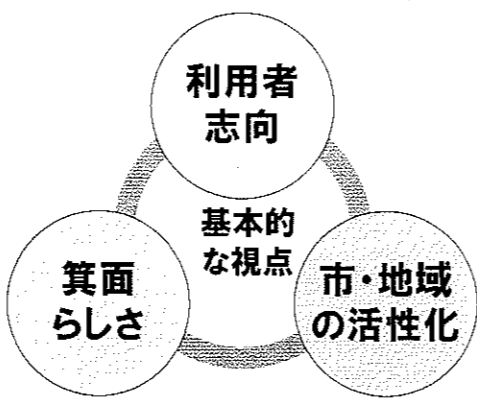
- ・下記のプログラムをたたき台として、第1回で進め方を参加者で確認する。
- ・ワークショップでは、「市民交流ゾーン」の実現を達成目標とし、関係者や近隣ユーザーの意見を踏まえて、めざすべき将来像(10~20年後)の検討とその実現に向けての「段階的なまち育ち・まち育てのプランとアクション」の視点から「こんな交流がしたい」→「だからこんな空間が必要」という提案を求め、整備計画検討の素材を提案していただく。
- ・なお、検討回数が不足する場合や、検討を通じて必要となった活動(例:街頭インタビュー)については、各グループの参加者の合意のもと、別途、自発的に活動をもっていただく。企画委員には世話役としてお手伝いいただくことができると考えている。
- ・懇話会メンバーには、第6回「検討成果報告会」で提案内容を直接聴いていただく。
- ・ワークショップ代表者には、懇話会に参加していただく。

	テーマ	内容(各回3時間程度を想定)
第1回	オープニング	①趣旨説明、②自己紹介、③現地見学(まちあるき)、④進め方の確認、⑤意見交換
第2回	こんな交流がしたい	①グループ討議(現状の問題点は?、めざすべき将来像は?そこでどのように交流したいか?)、②発表、③想いの共通点と相違点の整理
第3回	こんな空間で過ごしたい	①図面をみながらのグループ討議(私たちが交流するために、どのような空間が望ましいか?)、②発表、③作成を求める整備イメージ図(イラストなど)内容の確認
第4回	提案内容の整理	①整備イメージ図の報告、②グループとしての提案の流れの検討、③30名全員の想いとして発信するメッセージの検討、④検討成果報告会の企画
第5回	検討成果報告会の準備	①報告資料の作成・確認・調整、②リハーサル
第6回	検討成果報告会	①ワークショップの活動経過報告、②提案発表、③懇話会メンバーとの意見交換

1. 業務の着眼点

基本的考え方

- 「利用者志向」「箕面らしさ」「市・地域の活性化」を基本
中心市街地活性化基本計画など既往調査の成果を
ふまえ、箕面駅周辺整備について、「利用者志向」、
「箕面らしさ」、「市・地域の活性化」の3つの視点を
常に念頭におきながら、業務を進める。
- めざすべき将来像(10~20年後)の検討
整備計画を着実に進めるためには、その「旗印」や
「指針」としての、あるべき将来像の検討が必要と考
えられるため、ワークショップにおいて、将来像
(10~20年後)について検討する。



利用者志向

○駅前広場やサンプラザなど駅周辺を日常的に利用するコアユーザー(顧客)に支持される整備のあり方を考えることが重要である。
○そのため、コアユーザーの目線から駅周辺の問題点や課題を洗い出し、対象地区に求められる役割や整備のあり方を検討する。
例) 箕面駅の乗降客の73%が徒歩(千里中央駅は48%)
駅周辺の箕面一・二・五・六丁目の高齢化率20%以上

【調査方法】
○グループインタビュー
○ワークショップにおける現地調査(市民、観光客の視点で調査)

【実現化方策の検討に必要な調査】
○交通事業者、駐車場・駐輪場関係事業者、サンプラザ等の関係権利者への意向把握(ヒアリング、アンケート調査)等

▼

【調査方法】
バリアフリー化、憩いの場の整備等

箕面らしさ

○グループインタビューやワークショップにおいて、「箕面らしさ」について十分に検討し、その成果を整備計画(素案)に反映する。

【想定されるキーワード】
○豊かな自然 ○美しい山並み ○紅葉・メイプル ○文化的 etc

▼

【デザインキーワード例】「透明感」、「明るさ」、「開放的」 etc

○「箕面らしさ」をつくり守っていくための規制・誘導方策(屋外広告物等)についても検討する。

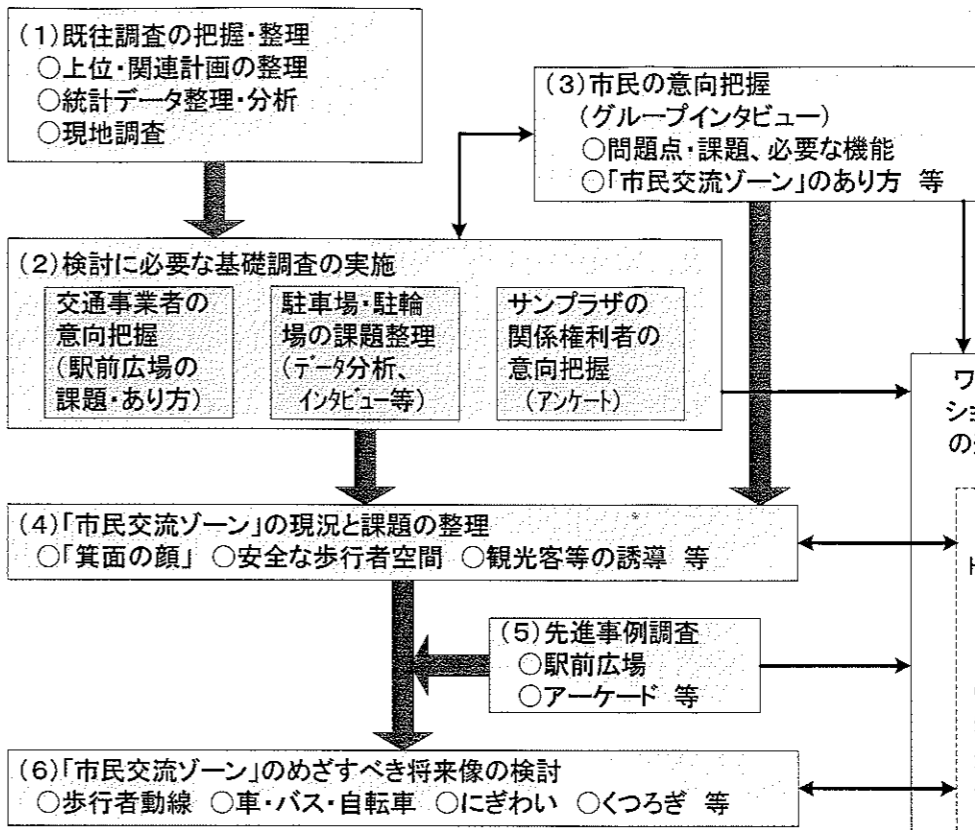
市・地域の活性化

○駅前が「市民交流ゾーン」に位置づけられていることをふまえ、シンボルロードの一部の区間や周辺ブロックを含む圏域を、あるべき将来像の検討対象とし、箕面地区だけでなく、市全体の活性化の視点から検討する。(整備計画の対象:仕様書の「検討対象施設」)

【活性化のための課題例】
○「箕面の玄関口」にふさわしい「箕面の顔」の創出
○サンプラザ等と一体的な利用がしやすい交流空間の創出
○箕面国定公園の観光客のサンプラザ・商店街への誘導
○シンボルロードにふさわしい景観形成・交流空間整備 etc

2. 業務の進め方

●フェーズ1:めざすべき将来像(10~20年後)の検討



●フェーズ2:整備計画の作成

